

第2回明石市緑の基本計画改定検討委員会 議事録

(開会)

資料確認と委員の出席状況確認(会議の成立宣言)

議事録署名人の選出

会議の公開(傍聴者入室)

1. 市長あいさつ

第1回会議は参加できなかったもので、本日、委員の方にお礼とお願いを直接お伝えしたい。これからの明石市に、緑は本当に大事。明石市はSDGs未来安心都市として、SDGsを長期総合計画の柱と考え、SDGs推進計画として位置付けている。SDGsは環境をベースにして、社会や経済が大きくまわっていくという考え方。第1回会議でネイチャーポジティブという発言もあったが、これからまさにそういうまちづくりが求められている。環境省の生物多様性という分野では30by30、2030年までに陸と海の30%以上を生態系として保全するという考え方もある。それを日本の国全体の話と捉えるだけでなく、明石市のような狭い地域でも、緑地をしっかりと確保していくことが、まちづくりにおいて大事。このたび緑の基本計画の改定にあたり、新しい方向性も盛り込んでほしい。市民の方から明石市の緑がいいなという声も多く聞いており、そういうまちであり続けるために、委員の方からご意見いただきたい。

私自身が市民と対話することを市政の大きな柱にしており、市民から意見を聞く場としてワークショップも計画したので、ぜひご協力賜りたい。市民と対話する際、一番大事なことは情報の共有。委員会でも、しっかり情報共有し、市民と一緒に対話の中で明石市のあり方を考えていただきたい。今年1月の広報誌に「共創元年」と書いた。色々な主体の方と一緒に対話を通して新しい価値を生み出していくため、ご協力賜りたい。

2. 意見交換

(1) 各委員自己紹介

(2) 私が思う明石の緑

(委員長)

皆さんが必要だと感じている明石の緑についてお話いただき、それをきっかけにして自由な意見交換をしたい。

(委員A)

藤江とか明石全体のイメージとして田園風景がある。

春に田植え、秋に稲刈りという四季折々の田んぼも、宅地開発によりなくなってきた。

農道に名もない草木が生え、それを見て楽しみ、癒される部分がある。

宅地開発は時代の流れで仕方がないが、環境面でそれに代わるものが確保できないか。例えば、新しい家を建てる時に、一本の木を植えるとか、花を植えるという施策などに期待したい。

(委員B)

緑の基本計画とは、木を植え、里山の整備をする計画だと考えていた。花壇や街路樹の話が多いが、緑を増やすなら、宅地造成を規制する考えも必要。地面の道路も必要。緑が減るとCO2の排出量が増えるので、そうした取り組みも緑の基本計画には含まれる。

(委員C)

緑はコミュニティ、人のつながりだと感じる。スマホになりマンションが立ち、生活様式も変わってきた中で、人のつながりも消えたと感じる。

子どもたちは、今の土のない生活が当たり前だと思って育つ。ゲームも好きだが、外で遊びたいとも言う。ささやかでも公園には緑があり、遊ぶこともできるので、それをうまく子どもたちにも教えたり、一緒に遊んであげたい。災害時やコロナ禍においては年代を超えて助け合うのも必要で、子どもたちと一緒に考える場があるとよい。子どもたちと一緒に遊ぶ機会を基本計画の中に取り込めるとよい。

(委員長)

人々がいろんなコミュニケーションをしたり交流をしたり、協働する場所、そんなスペースも緑に含まれる。

(委員 D)

大久保の西部にある市街化調整区域の田んぼの一角に 40 年前から農園を借りている。他の地区から通う方、高齢の方も含め 30 人ほどで楽しんでやっており、自然が減っているとは全く考えなかった。全体の報告を聞き、随分減っていることを知り、できるだけ残していく方がよいと思った。

コンクリートで囲まれた街では面白みがないが、街中では草が生えていると見苦しい。

何でもよいから緑があればいいというのも違う。街中は整然ときれいにあるべき場所に緑があるとよいが、その観点では街中に緑や木が少ない。

街路樹も少ないが、公園には木があり、花壇もある。池の周りにも自然が残っているが、点在していて全体としては緑が少ないところも多い。

(委員長)

調整区域の田んぼの話は、意外に明石の緑の資源として多くの人に意識されていると認識した。そのように広く意識されているのであれば、愛称のようなものがついたりしていないのだろうか。埼玉の大宮、浦和の東側に、「見沼田んぼ」と名付けられた広大な田んぼがある。ここは、そこを住宅地にしてしまうと南の越谷の方が洪水になるため、流水の調整機能として上流部側の田んぼが保全されているのだが、結果として美しい田園風景が保全され、営農もされて、市民にとっての貴重な空間となっており、その愛称が付けられて親しまれている。保全を進めるためには、愛称の命名などもよいかもしれない。

(市長)

コウノトリが何十羽も来ており、明石でここだけしかいない希少種のいるため池もたくさんある。

(委員 A)

野鳥も多く、カメラマンも寄ってくる。レンゲ畑もある。

(委員 E)

明石の海岸線は貴重。近くに八木遺跡公園があるが、緑を一面に張ったような広い土地がある。お正月にはたこ揚げもできる。海にもつながっており、地形を利用した緑の空間というのも明石の大事なところ。

(委員 F)

時間軸で言うと、明石には歴史もある。源氏物語にも登場し、菅原道真が歌を詠み、子午線を通る天文科学館もある。明石には本当にいろんな素材がたくさんある。昔はホテルもいて、身近に緑はたくさんあった。便利になった生活は戻せないが、明石で増えている子どもたちが、緑を身近に感じられる街になってほしい。

(委員 G)

沢池地区には緑道というものがあるが、歳を重ねるにつれ、景観が素敵だとか、ゆとりを感じたり、残していきたいと思うようになり、小学校や中学校に向かう道路もそうであればよいと思う。ゴルフ場の緑も目の保養になる。日常になくても、石ヶ谷公園や上ヶ池公園に緑があるという環境だけでも、人の心にゆとりが生まれる。例えば明石市内の企業にできるだけ緑を置いてもらうようにするとか。会社の会議室にある緑、人工的な緑もいい。スキューバダイビングの際に見える、海の中のアマモなどの緑もいい。遠くに見える淡路島という緑も含め、あらゆる面で明石市は恵まれているので、それらをなくさないようにするのがよい。

(市長)

日本環境教育学会でSDGsを手がかりにした緑の在り方を考える研究発表をしたり、日頃から街の緑を考え、緑の在り方を研究テーマに10年くらいやってきた。庭の緑だけではなく、明石全体の街づくりに対する意見も大変ありがたい。

市長として、明石の緑の在り方の大きな方向性を皆さんと一緒に考え、見出していかなければならない。明石には海をはじめ、市の南西部や北部を中心に緑豊かな丘陵地など恵まれた自然環境がある。

市街化調整区域には、ため池とか田園が広がるのどかな景観もあるが、近年宅地への転用が進んでおり、皆さんが住み続けたいと思う街づくりを進めていく上で重要な視点として、都市の利便性だけではなく、自然環境との両立が大事。自然環境の保全と都市の利便性の調和への配慮、量だけでなく質の高さ、市民の皆さんが身近に緑を感じて安らぐ緑地や公園の整備に努めることが、大きな方向性。その方向は、今日の委員の皆さまのお話から、間違っていないと感じた。ワークショップでも、市民の方がどう思っているかお聞きしたい。

宅地開発が進み、四季折々の緑を感じるものが少なくなる中で、それを補うため、委員の方から意見もいただきたい。アイデアとして、明石市に引っ越してきた方に一本の苗を渡して、庭に置いていただくなど。先ほどお話にてた、子どもたちが外で遊ぶ体験として、東京の世田谷区ではプレーパークという外遊びを推進している。市民の方からも必要とっていただければ明石市でも進めたい。

田んぼは、市の土地ではなく、土地を持つ農家の方に農業を続けていただかないと守っていけない。その仕組みを作っていくことが市の施策としては大事だと考えている。

(委員長)

子育て支援施策というのは行政から市民への給付施策になりがちだが、緑のまちづくりというのは給付ではできないと改めて思う。皆さんからは、みんなでやっていこうという意識や、そこへ参画していこうという気持ちも聞けたが、全ての市民の方がそれを持っているというわけではないので、いかに周りの人たちにも広げられるかがこれからのキーポイントとなる。

(3) 明石の緑のためにできること

(委員長)

行政も市民の側も歯車を噛み合わせる必要があるが、市民に必要なことと市民としてできることという両方の面から1個ずつでよいので、ご意見をお聞かせください。

(委員 D)

魚住みんな公園には、グラウンド、駐車場、トイレ、管理棟、遊具エリアがあった。そうすると、親子は車で来て、遊具で遊んで帰ることになる。市民が市内の色々な緑に目を向けたり、緑を育てようとする行動は、年をとり時間のある人だけがやるのではなく、子育て中の家族、子ど

ものうちから、花を育てたり野菜を作ったり情緒を育めるとよい。

次に公園を作るときには、公園の一角に市民農園や花壇を作ったり、実際に体験できる場所を作してほしい。遊具で遊ぶだけで終わらず、次に行ったときに自分の植えた花があるのもよい。野菜作りや花壇作りには水もトイレ、駐車場も必要。

農園だけのためにそれら全てを作るのは費用がかかりすぎて大変。だから、公園整備のときに、その一角に作れば、トイレなどの施設は共有できる。長く滞在して、半日くらい楽しめると思う。

(委員長)

そのようなことを公園の中で行おうとすると、どうしても管理する人が必要となってくる。その管理人を行政で担っていくというわけにはいかない場合、今花壇を管理しているボランティアの方が行うなどの新しい方法も考える必要がある。管理の軽減を考えるなら、野菜よりもっと簡単なものとして果樹が考えられる。たとえば今の時期なら、柚子がある。多くのご家庭の庭で植えられており、実った柚子の実がよく目につく。手がかからず植えっぱなしでよいが、棘があるのでその管理は必要だが。

緑に触れるきっかけとなるものには、綺麗だから、おいしいから、得になるから、といったものがあると思う。教育的に緑に触れましょうと仕向けても、必ずしもそのとおりにはないところもあり、コーディネートする何かが必要。しかし、そのような役割を果たせる人材は明石市民の中に潜在していると思う。地域から委託された公園愛護会のようなところが中心になって、掃除や美化に限らず積極的に、緑やそれを活かした活動を拡大したりとかをしていくことが好きな方の活躍の場を作ればいろいろな可能性が広がる。

(委員 D)

細かいことは業者や行政ではできないので、近くに住む市民が自分たちの庭だと思ってやらないと、ずっと綺麗にはできない。

(委員 A)

よその自治会ではゴミ袋が配られたりするが、私は自治会で花を配るようにしてみると、地域の一軒一軒に花が届くと気持ちが潤う。地域のリーダーとなる人が花や植木みたいなものを周りに広げていく。そうして地域活動や街づくりをしていくのが大事。その花が枯れても、また来年、花が咲くというので喜ばれたこともある。花などの緑を身近に置く習慣を地域活動の中でも植え付けていくことが大事。市長も言われたように、市政何周年の植樹祭として小学校で植えた梅の木が今では大きくなっている。やはり仕掛けていくのが大事。

習慣のない方にも仕掛けていくのが行政でもあり、街づくりを先導する地域のリーダーでもある。これを機会に緑をもっと生活の中に入れ込んでいくような施策を意識的にやっていく。

私たちのできること、それから行政にお願いすること、一緒になってすることも考えていきたい。藤江小学校の3年生4年生が絶滅危惧種のハマビシという黄色い可愛い花を藤江の浜で育てている。学校教育だけでなく、地域のその浜に接している住民の皆が関心持つような仕掛けもこれから大事。行政と企業と一緒に絶滅危惧種を育てていくことも大事。自然に育つものはよいが、人の手を加えないといけないものは大事に育てていかないといけない。今年一番関心事である。

(委員 B)

基本計画の素案は予定通りできるのか。

今日の会議では、説明会で出す素案を今日話し合う予定ではないのか。1人当たり公園の面積いくらにするとか、事業者の緑の面積率が緩和されて減るような緑をどうカバーするのか、全体の緑の必要量とか。

(事務局)

当初のスケジュールでは、住民説明会の後に第2回会議の開催予定であった。

説明会に代えて、2月20日にワークショップを行い、その後に素案を作り込んでいくという予定変更となった。現在、そのワークショップに向け、広く市民の方に周知し、参加を募っている。素案を出して意見をいただく説明会ではなく、市民の方にも明石市に必要な緑、将来どうしたいかなど色々な意見を聞き、その意見を素材として緑の基本計画の素案を作成したい。

(委員C)

明石川でゴミを拾う活動があるが、他でもゴミを拾う活動を目にすることがある。そうした活動は街をきれいにという、花とか緑とか以前のことで、心もきれいになるような活動も一緒に検討してほしい。

(委員E)

市街化調整区域は保全されるが、変わっていくかもしれない緑もある。変わらないものは、例えば明石公園のような大きな公園。そこを利用する子どもたちと関わる緑を作ったり、子どもの時から緑に関わることが必要。

(委員F)

近隣の市で、子どもが生まれたときに苗をプレゼントしていた。その子どもの木だから、その苗が大きくなっていき、20歳になった頃には大きくなっているような感じで提供してもらおうとか。無料で配布してほしいというわけではないが、ゴーヤの苗をもらって植えたことがきっかけで、毎年ゴーヤカーテンをされる人もある。

小学校1年生がアサガオの種を植え、観察日記をつけて、その年は綺麗な立派な花を咲かせたり、芋掘りに行けばおいしいと言うがそのときだけ。

公園の一角に花壇などがあり、みんなで、種を持ち寄り、植えて、水やりをして育てていくのもよい。家で育てられる人はそこで育てればよいし、取れた種を植えて、次の年にまた花が咲くというように毎年繰り返されていくのを、周りの人や子どもたちも見て、続けられるとよい。

(委員G)

まちづくり協議会で、卒業する小学6年生と一緒に、地域で6年間お世話になった公園をきれいにしていこうと公園清掃することを始めた。連合PTAとしては、緑を取り入れた絵画コンテストや緑のある場所に一緒に行く企画。沢池校区にある上ヶ池公園について、市に公園整備してもらおう代わりに、地域住民としてはその管理をしようという声もある。

自治会が入っていない人は地域清掃しないが、まちづくり協議会という単位なら、自治会とか子ども会とかPTAとか関係なく、みんなが地域の緑に関われることを提案できないかと今思いました。

自分の家族も、朝、自分にご飯を食べなくても、家の中にたくさんある緑、植物に水やりだけはして家を出ていく。愛着というか、育てたいという気持ちが重要だと思う。

花を育てるのも子どもを育てるのも同じで、心を育むには、家庭、学校、職場のどこかに、そういう存在のあるのがいい。

(市長)

先ほど委員の方からなぜ素案を示さないのかというご指摘があった。従来型の住民説明会は、まず市が作った素案について説明して意見をいただく方式。この度は、緑の基本計画の説明もした上で、まず対話させていただき、何が足りないか、明石の緑に対してどう思っているのか、子どもたちや未来に向けてどうしていきたいのかなど、しっかり意見聞いた上で、素案をまとめてもらいたいということで、この形となっている。今日のご意見もありがたく、素案を作る上でのポイントになると考えている。

3. その他

(事務局)

2月20日開催予定のワークショップのご案内(チラシによる説明)

(市長)

議論と対話と会話は違う。議論は、結論を成すとか、想像の枠を超えないとか、違いを攻め合うとか、自分の考えを変えにくいという特徴がある。対話は、一つのテーマを皆と一緒に深掘りして対等の立場で話をし、他の方の考えに耳を傾ける。違いを分かり合い、自分の考えも変わったりする。その中で一定の方向性が見出せるようなもの。しっかり情報共有を行った上で、一緒に対等に話すという形で、ファシリテーターという対話を促進する役割の方も入れるなど工夫するので、ぜひそれを体験してほしい。

4. 閉会

(事務局)

ワークショップでの話し合いが直接的に基本計画になるわけではないが、作る素案は、同じように見えても、段階を経て作るものと、行政だけで作る計画では違ってくる。肉付けやバックボーンのあるものを作るためにも、市民の方から自由な意見いただき、素案という形を作っていきたい。次のワークショップで出た意見を総合し、検討委員会の第3回、第4回に引き続き意見を頂戴したい。

以上

議事録署名人

議事録署名人